

泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように

1

がん検診の目的って何？早期発見？

文 佐々木裕

text by Hiroshi Sasaki

皆さん、「健診」と「検診」の違いをご存じでしょうか。「健診」とは、いわゆる健康診断のことで、自身の健康状態を確認し、病気を予防することを目的としています。一方、「検診」は、特定の病気を早期に見出し治療することを目的としていて、その代表は、がん検診です。

前立腺がん検診は、通常、PSA（前立腺特異抗原）という腫瘍マーカー採血検査を行います。高い場合は、MRI検査を行い、組織を採取する検査（生検検査）で確定診断をつけます。では、PSAが異常値である場合、すべてに生検検査を行う必要性があるのでしょうか。本当にその目的は早期発見でしょうか。

前立腺がんの治療選択肢には、PSA監視療法という、すぐに手術や放射線治療を行わず、腫瘍マーカー採血を行いながら経過をみて変化があった場合、根治治療を行うといった治療方針があります。すぐに根治治療をしなくて済むと喜ぶ患者さんいますが、一方で、がんの診断があるのに経過をみていくことで大きな不安を持つ患者さんもいます。実は、まだ見つけなくてもいいがんを見つけてしまっている可能性があります。

がん検診の真の目的は、**がん特異死**

亡率の低下、つまりそのがんで亡くなる可能性を低下させることにあります。前立腺がんには、「Significant cancer」といった言葉があり、日本語に訳すと、「臨床的意義が高いがん」、つまり、「予後に影響する可能性がある、治療が必要ながん」といった意味になります。この「Significant cancer」をいかに正確に検出するか、これが前立腺がん診断において重要です。そのために、最近ではMRI検査を行い、異常がある場合は、MRIと超音波を使用した、融合画像ガイド下前立腺標的の生検が行われています。本生検検査を行うことで「Significant cancer」の検出率は上昇し、2022年4

月からは先進医療から保険適用となりました。前立腺がん領域では、こうした治療が必要ながんをより正確に診断する様々な工夫、研究が進められています。

もちろん、前立腺癌がんを含め、**早期発見が重要**



タカイ医科工業（株）ご提供



Profile

佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師
1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がん研究・診断・治療を行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US前立腺融合標的の生検の先進医療では、保険適用に尽力した。多くのがん患者さんが不安を持つなかで、少しでも安心に変えられるような施設の必要性を感じ、2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。全国からの多くの前立腺がん相談にも対応している。

です。まず、がん検診で異常結果が出た場合は、その後の精密検査の必要性・意義などをよく専門の先生にご相談されることをお勧めします。「Insightful cancer（臨床的意義低いがん）」を診断・治療しないために。泌尿器で「不安がある方はいつでもお気軽にどうぞ。」